

シンポジウム

うま味からの再考

環ヒマラヤ地域の生態・生業・移動

2026 11.8 日

10:00▸15:30

昆布だしや鰹だしなどから私たちが感じとっている「うま味」。この「うま味」、日本だけでなく、チベット高原やヒマラヤの山中でも親しまれていることをご存知でしょうか？　本シンポジウムでは、同地域の「ミルク由来のうま味」とそれを巡る人々の動きに着目し、言語学・酪農科学・宗教学・文化人類学という複数の視点から検討します。



プログラム

10:00　**趣旨説明**　星泉（AA研）

● ヒマラヤの北、ヒマラヤの南

10:05　**チーズのレンズで見てみよう：環ヒマラヤうま味マッピングの試み**
星泉

10:45　**ヒマラヤ南面で熟成チーズがなぜ発達したか：生態環境と生業構造から考える**
平田昌弘（AA研共同研究員　帯広畜産大学）

11:35　**「臭すぎないうま味」の境界線：環ヒマラヤの生業と東西偏差**
別所裕介（AA研共同研究員　駒澤大学）

12:15　**昼食休憩**

● 東ヒマラヤから

13:10　**山村は何を食べてきたのか：東ブータンにおける食・生業・移動**
石内良季（日本学術振興会　京都大学）

13:50　**アルナーチャル・ヒマーラヤの熟成チーズと味わいの感性：発酵・腐敗・薬草の環世界**
長岡慶（東京大学）

14:20　**パネルディスカッション**

15:00　**全体質疑応答**

15:25　**閉会挨拶**　平田昌弘



会場

東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所
（AA研）

ハイブリッド開催

開催言語：日本語　参加費：無料

※どなたでもご参加いただけます

要事前登録

参加をご希望の方はQRコードより
お申し込みください

開会直前までお申し込みいただけます

J-PEAKS　ILCAA Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa　TUFS フィールドサイエンスコモンズ



主催・共催　J-PEAKS 学際研究「乳由来うま味成分の文理融合研究：環ヒマラヤ地域を事例として」；東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（AA 研）共同利用・共同研究課題「環ヒマラヤ地域における農牧複合フロンティアの実態解明－語彙研究のアプローチから－」；AA 研学際領域担当；TUFS フィールドサイエンスコモンズ